

保護者様

あおいガーデン

あおいガーデンでは、静岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例に基づき、2021年度の自己評価と保護者評価を行いましたので下記の通りご報告いたします。

## 2021年度 自己・保護者評価報告書

### 1 あおいガーデンの教育目標及び本年度の重点目標

- ◎ 保育目標…心身ともに健康な子  
 ○ 子ども像 \*自分を大切に、仲間とともに成長する子ども  
           \*まわりのものに深い関心を寄せ、感動できる子ども  
           \*じょうぶな体をもつ子ども  
           \*自分の発見や考えを豊かに表現できる子ども
- これらの子ども像を達成するために、本年度は昨年度に引き続き「乳児理解と育ちの記録・あそびの考察・環境」を研究テーマとし、保育の充実・向上を図ることを重点目標とします。

### 2 評価項目の及び取組状況 (A=よくできた B=ふつう C=できなかった)

#### (1) 保育

「日常の保育活動」を教育課程の充実に結びつけた記録用紙「ちょこっと記録」を月1回個人で記入し、振り返り、自己学習を深めてきました。また、日常の会議の中で「ちょこっと研修」を開催し、理論を深めてきました。結果、保育実践の向上、保育士の保育力が向上しました。さらに、保育環境の充実の視点を深め、教育課程の見直し充実が図られました。この見直しを継続していくことで、子ども観・保育観が豊かになり、より子どもの育ちにかかわる保育創造が進みます。		
評価項目	取 組 状 況	自己評価
乳児理解を深めるための視点の学習	自己学習力を上げ、日常の会議の中で実践を振り返ることで、乳児の姿が立ち上がり、その意味を学び乳児理解・子ども観・保育観が深まりました。	A
乳幼児の発達を学んで乳幼児保育を充実する研究	日常の短い時間、総括、方針などの場面で学習を進めてきました。その中で「今」を充実する保育を創ることが次の時代の発達の土台を創ることを学んできました。	A
保育環境研究	保育指導の中で「環境」の大切さを深め、室内だけでなく園庭の環境整備を考える中で保育環境について学ぶことができました。	A
具体的な保育内容を考える	職員会議、総括、方針会議の学びは、保育の視点、保育内容のあり方を深めることができました。	A
教育課程を見直す	毎月の実践検討会で見いだされたことを教育課程に照らし合わせ、見直しを行い、日常保育と教育課程のつながりを学びました。	A
保育の様子や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝える	クラス便りを子どものつぶやきを中心に、保育の様子、子どもの様子、保育方針が伝わるよう、随時発行しました。保育参加等の開催時期を見直し、その際には園長や担任が保護者に分かりやすい言葉で伝えることに心掛けました。連絡帳の活用にも力を入れました。送迎時などに積極的に会話をすることを心掛けました。園便りを定期的に発行しました。	A

## (2) 運営

評価項目	取組状況	自己評価
教職員体制の改善、向上	・幼保連携型認定こども園あおぞらキンダーガーデンと、園児、教職員の交流を行い、研修を実施しました。	B
施設環境の整備	・外構補修工事（園庭整備、パーゴラの設置、落ち葉対策等）	A

### 2021年度 あおいガーデンに関するアンケート」の報告

実施した標記のアンケート結果について下記のようにご報告いたします。今後の保育活動の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

< 配布枚数15 回収枚数11 回収率73.3% >

	はい	どちらでもない	いいえ
ア お子さんは保育園に通うのを楽しみにしていますか	11人(100%)	0人(0%)	0人(0%)
イ お子さんが「成長したなあ」と感じることはありますか	11人(100%)	0人(0%)	0人(0%)
ウ お子さんは一年前に比べ自分でやる力が育ったと思いますか	10人(91%)	1人(9%)	0人(0%)
エ 保育園や職員に子育ての悩みや疑問を相談しやすいですか	11人(100%)	0人(0%)	0人(0%)
オ 連絡帳、おたより、懇談会、相談などを通して保育やお子さんの園生活は分かりやすいですか	11人(100%)	0人(0%)	0人(0%)

### 3 今後取り組むべき課題

アについて	子ども一人一人の状況をつかみ、課題を見つけ楽しく登園できるように家庭との連絡を密にしていく
イ、ウ、エ、オについて	子どもの今の「ありのまま」をつかみ、共感し保育を創る中で、親との信頼関係・ネットワークを構築し、子育てのパートナーになる様に、保育を進めていく

子どもを取り巻く状況が厳しくなる中、親も子育てを通して親になる喜びを感じる事が難しい時代となっています。園では、子どもをまんなかにして「子どもの最善の利益」をもとめ、パートナーになり、保育実践を進めていきます。その為、子どもと親の理解を深め、より専門的な保育の知識や方法が必要となり、新しい多様な視点をもって、学びを深めていきたいと思っています。  
これからも、保育の中で大切にしてきた実践の中核を確認し理論と実践を深め、さらに新たな保育方法を学び、保育の質を高めていきます。